



感謝をこめて いただきます

校長 中村 順子

毎日12時半を過ぎると、あちこちの教室から「いただきます！」の元気なあいさつが聞こえます。給食指導の時間です。「給食指導」は、平成20年の小学校学習指導要領改訂において、総則に「食育の推進」に関する規定が盛り込まれて以来、「特別活動」の中の「学級活動」の指導内容として、教育活動の一つに位置付けされています。本校でも毎日、栄養士や各担当が、子供たちの体と心を健やかに育むための給食指導を行っています。

以前の学校給食では、全員が同じ量で配膳され、それを絶対に残さずに食べなければならないという風潮があったようですが、現在は、自分の体にちょうどいい量を自分で考えることや、苦手な食材に向き合うことを通じて「挑戦していく気持ちを育てる」ことなど、児童の実態に合わせた指導が一般的になっています。

給食指導が始まりしばらく経った時間に教室に行くと、子供たちが話しかけてきます。「校長先生、もう全部食べ終わりました！」「おいしかったから、おかわりしました！」など、満足そうな笑顔を見せてくれます。また「あと少しがんばるから、校長先生見てね。」と、苦手な食材をえいっと口に入れて、自慢げな顔をする子もいます。その一方で、「野菜は無理。きのこも。もう食べない…。」と言い切る子もいます。栄養士は、そのような声を拾い集めて、野菜や豆類など子供たちが苦手意識を抱きがちな食材を、ドッグパンの具にしたり、パスタソースにしたりと様々な工夫をしています。知らず知らずのうちに、栄養価が高くバランスのよい、かつおいしい献立として子供たちに届けている栄養士の手腕には感心するばかりです。新米がおいしく出回る秋からは、「豊川小学校新米No.1 グランプリ」と銘打った、各地の新米の味比べを楽しみながら、ご飯の残菜を減らすための企画を行っています。給食室前の掲示板に大きく掲げられた栄養士手作りのポスターの文末には「作ってくれた人に感謝していただきましょう。」と書かれています。

「いただきます」という言葉には、「食材の命を頂く」という感謝の意味が含まれています。併せて、生産、加工、流通、調理など、私たちの口に入るまでに携わる方々に感謝の気持ちをもつこと、これも大切な「感謝をこめて いただきます」に当たります。「いただきます」の言葉に込められた感謝の気持ちを、食を通じてもつことができる子供たちであって欲しいと願いながら、豊川小ではこれからもおいしい給食を提供していきます。

5年生は、総合的な学習の時間に「食品ロス」をテーマに据えて取り組んでいます。先日は近隣のスーパー「サミット」にお伺いして、廃棄物を減らす取り組みについての見学をさせていただきました。9月の学校だよりで6年生の環境についての学習の取り組みをお伝えしましたが、5年生の学習はそれを受けた一環になっています。5年生たちの食についての意識が、今後どのように変容していくのか、興味深く見守っていきます。

毎年12月24日は「学校給食感謝の日」です。1946年12月24日に、アメリカの民間救援団体「ララ」からの給食用物資の贈呈式が行われたことを記念した日です。冬休みを挟んだ1か月後の1月末の1週間は「学校給食週間」です。豊川小でも、学校給食週間にちなんだ献立を企画しています。

年末年始には、年越しやおせち料理などで、季節のいろいろな食材を目にすることでしょ。子供たちが食に関心と感謝の気持ちをもつ年末年始になることを願っています。

*

今年も豊川小の教育活動に多大なご協力を頂戴し、ありがとうございました。皆様、どうぞよい年をお迎えください。

